

令和7年度2学期 始業式 講話

■令和7年 8月26日 No.12「かな文字 5」

夏休みはいかがでしたか。こうして皆さんの元気な顔と再会できて、校長先生はとてもうれしいです。今日から2学期が始まりました。

おしらせ①。育休中の新田先生が復帰されました。3～6年生の理科を担当していただきます。よろしくお願いします。

お知らせ②。下駄箱を1階の廊下に新たに置きました。1階より上は上靴で上がるようにしてください。教室や廊下にどろや砂が上がりなくなり、事故も減り、毎日のお掃除も楽になりますので、ご協力よろしくお願いします。

それでは、前回のお題です。

伊千加川機

於州加礼散末 天川之多

仁加川機加良毛

加尔八川天 伊機末之與宇

いったい何とかてあるのでしょうか？

結構多くのお友だちが、答えを言いに来てくれました。ありがとうございます。正解は「一学期もお疲れさまでした。二学期もがんばっていきましょう。」でした。

アルファベットのAは牛の顔からできました。

山という漢字は、実際の山の様子からできました。では、ひらがなや、カタカナはどうやって始まったのでしょうか？



もともと、日本には言葉はありましたが、文字がありませんでした。中国から、お経やお手紙が届いて初めて文字をしりました。

中国からのお手紙は、全て中国語、漢字で書いてありました。だから、日本人が初めて見た文字は漢字だったのでしたね。文字があるととても便利でした。しかし日本語の音を、無理や漢字に当てはめるので、意味がおかしくなりました。画数も多くて大変でした。

「伊奴」なんて書いてあるのでしょうか？これは「い

ぬ」と書いてます。「犬」という漢字でないとわかりにくいですね。「伊奴」こういう漢字を万葉仮名と言います。「伊奴」では、わかりにくいので、伊の左側をとって「イ」、奴の右側をとって「ヌ」と漢字の一部を切り取って、新しい文字が考えられました。これがカタカナの始まりです。

「機與字加良 仁加川機天須」は何てかいてあるのでしょうか？カタカナにするとわかります。「キョウカラ ニガッキデス」と書いてあったのですね。それでは、ひらがなはどうやってできたのでしょうか？

実はひらがなも漢字からできました。みなさんが習っている漢字は「楷書体」という文字です。それをくずして書く「草書体」がつくれ、さらに書きやすく崩したのが「ひらがな」です。では、この楷書体の漢字は、何て書いてありますか？「也左以」草書体でかくと「」そう、やさいですね。では「波知美川」は？赤ちゃんが食べてはいけない食べ物です。草書体では「」そうはちみつですね。

ここまで考えると、おかしいことにきがつきませんか？少しまわりの人と聞き合ってみましょう。そう、すでに漢字を簡単にしたもの、カタカナがあるのに、なぜひらがなができたのでしょうか？日本を習う外国の人は、みんなこの疑問をもつらしいですよ。日本語は、文字が多くて覚えるのが大変だ！と。

ひらがなができたのは、漢字やカタカナは、習うことができる人が限られていたからなのです。漢字やカタカナを教えてもらえない人が中心になって、「ひらがな」ができました。この教えてもらえない人って、どんな人たちだと思いますか？周りの人と聞き合ってみてください。

教えてもらえない人は、女のひとでした。昔は文字は全て男のもので、女の人が漢字やカタカナを書くこと、習うことは許されていませんでした。しかし、女の人も手紙や日記が書きたい、勉強したい！ということで、女の人専用の文字として、

ひらがなができました。だから、ひらがなができたことで、平安時代には紫式部や清少納言などの女性作家もたくさんうまれました。

もちろん、今では、ひらがなは男女関係なく使っています。女の人専用文字だったひらがなが、どうして男の人でも使うようになったのでしょうか？これを今週のお題とします。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。良き夏休みをお過ごしください。